

## 10. 古墳時代のはじまり

卑弥呼（ひみこ）が亡くなった頃に、古墳時代が始まったの。最初の頃の古墳からは、銅でできたまるい鏡、緑色の石でできた勾玉（まがたま）や管玉（くだたま）、腕輪（うでわ）が見つかります。鏡は、つるつるに磨いた表面と模様が描かれた裏面があるの。当時の鏡は、自分の姿を見るためではなく、神まつりやまじないに使われました。当時の王は、神様の教えやまじないに頼りながら国づくりを進めていたの。特に三角縁神獣鏡（さんかくぶちしんじゅうきょう）と呼ばれる鏡は、卑弥呼が中国からもらった鏡ともいわれる、とっても大切な鏡よ。各地のリーダーの古墳からみつかるので、大王が三角縁神獣鏡を各地のリーダーに配ることで、大王を中心としたつながりを強めていたのね。